一般財団法人
日本みち研究所

第 70 回土木計画学研究発表会・秋大会への参加報告

2024 年 11 月 15 日～17 日に、岡山大学津島キャンパスで第 70 回土木計画学研究発表会・秋大会（企画提案型）が開催されました。

当財団からは、吉原上席主任研究員、白石元研究員、藤原研究員ほか 4 名が参加し、計 3 件の発表を行いました。以下、その概要をご紹介します。

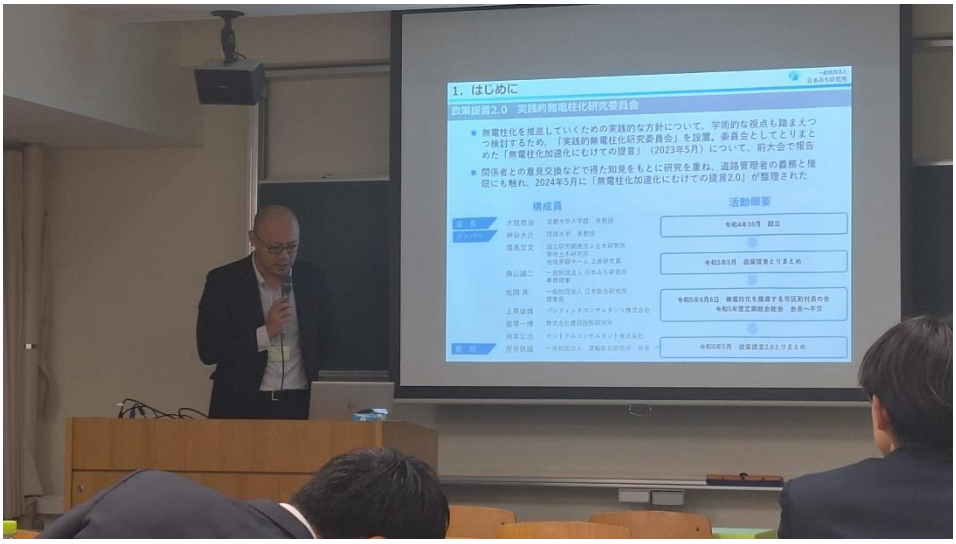
〇11 月 16 日

１：無電柱化時代を見据えた土木計画学の役割と今後の展望
「これからの無電柱化推進計画のあり方」
藤原研究員

・論文要旨

2023 年 4 月から電気事業法改正に基づくレベニューキャップ制度の運用が開始され、電力会社の無電柱化に対する主体的な取組の萌芽も見受けられるようになりつつある。一方で、無電柱化の推進に関する法律において無電柱化は電線管理者の責務とされているものの、現状の仕組では電線管理者が積極的に取組もうとするインセンティブは働かない。そのため、電線管理者側が主体的に取り組むための動機や推進力として何が有効か、道路管理者側からの働きかけについて検討を行った。

道路管理者には国民の公共財である道路を適切に管理する義務があり、そのために種々の権限が付与されている。そのうち、電柱等の義務占用においても留保される無余地性の審査権限の活用、道路法第 37 条に基づく占用制限の活用、無電柱化推進法第 12 条による同時整備の適切な実施が、電線管理者にとって無電柱化に取り組む動機となることが考えられる。



〇11 月 17 日

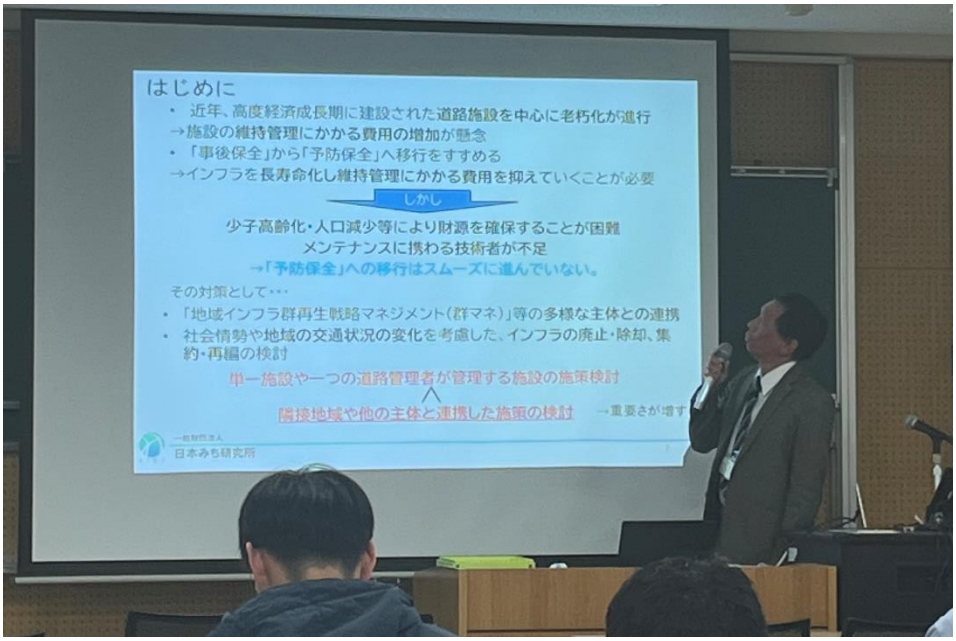
２３：EBPM によるインフラマネジメント

「DRM と関連づけた全国道路施設点検 DB の活用可能性と特徴について」

株式会社　長大　白石課長代理（元研究員）

・論文要旨

近年，道路施設の老朽化が進む一方で，厳しい財政状況，管理職員の不足といった背景が存在し，特に地方公共団体においては，5 年以内に措置すべきとされる判定区分ⅢまたはⅣと診断された道路橋の措置着手率は 6～7 割程度と遅れている．老朽化対策として，地域の実情や利用状況に応じ，架替，修繕，集約・撤去等を選択肢とし，長期的な視点で対策を選択することが重要となっている．2022 年より国土交通省の xROAD の一部として公開された全国道路施設点検 DB（点検 DB）は，各道路施設の諸元情報や点検結果が 1 レコードにまとめられた DB であり，道路管理者の点検・修繕計画等の施設管理を行う際に活用されるほか，公開用 API を利用して外部アプリで利用することが可能である．本研究では，点検 DB と DRM とを関連付け，線的・面的な情報と重ね合わせることにより，道路管理者の老朽化対策等への活用可能性やデータの特徴について整理した．



５１持続可能な地域づくりに資する環境・観光政策

「持続可能な地域づくりに貢献する、次世代の「道の駅」のあり方に関する研究」

吉原上席主任研究員

・論文要旨

「道の駅」は，地域課題解決の場，地方創生の拠点として，全国に 1221 駅（令和 6 年 10 月現在）まで拡大している．しかし「道の駅」を取り巻く環境は，制度創設から 30 年を経て，人口減少や「道の駅」数の増大による競争激化など，大きく変化している．

次世代においても「道の駅」が地域や利用者の期待に応え続けるためには，まちづくりとの連携や社会的課題の解決に向けた必要なサービスの提供を通じて，持続可能な地域づくりに貢献していく必要がある．そのため本稿では，「道の駅」の整備状況を分析し，今後の「道の駅」整備のあり方や，社会的課題解決のための先進的な取り組みの紹介を通じて，持続可能な地域づくりに貢献する「道の駅」整備を行う際の参考となるよう，とりまとめた．